



「アリス」は好きですか？



小学部5年の英語活動で読んでいる「不思議の国のアリス」。イギリスの数学者、ルイス・キャロルによって150年前に書かれました。英文学としては、聖書とシェークスピアの次に多く読まれています。

私自身、子供の頃から「アリス」はいまいち好きではありませんでした。あのナンセンスなところが、どうも苦手でした。しかし先日こんな興味深いご意見を発見。ここで紹介させていただきます。

○アリスは、キャロルが子供にせがまれて即興で作った話。子供のお眼鏡に合うものを求めた結果、言葉だけでなく、あらゆるリアルは反転している。

○日常では、人に優しく礼儀正しくあるべきはずが、不思議の国では皆不親切で意地悪でおこいっぴい。（出版された時代の厳しいイギリスの上流階級では、これも新鮮だったはず！）

○時間軸がバラバラで、筋はこれでもかというくらい通らない。

○作者のキャロルは数学者だったため、効果的に論理をひっくり返し、言葉を解体し、記号と意味を並べ替えて子供たちを感嘆させた。そして大人たちをも夢中にさせた。



まさにナンセンス、意味がないところに意味を見出して楽しむことができれば「アリス」上級者なのかもしれません。マザーグースに通ずるところがありますね。マザーグースは韻を踏んだ詩なので、子供たちも楽しく暗記をすることができます。「アリス」を読み終えたら、アリスの挿入詩を暗唱してみようと思います。マザーグースのパロディもあるので、両方覚えてみるのも面白いかもしれません。こうやって英文学を築いている文化を肌で感じていくことは、今後子供たちが英語を学ぶ上で、大いに役立つと思います。



Kurt 先生からのお返事



中学部の英語劇にアドバイスをくださった日系アメリカ人の Kurt 先生から、中学部のエッセイにお返事がありました。

Thank you SO much for this kind letter. I was so moved by the students letters!! Thank you and I am so glad my words could help them enjoy the performance and look forward to the next one! I will have to come back to Milano to see it for myself soon 😊 Thank you so much again. I have printed their words out and I will keep them close with me. Hope to see you soon!! Anytime a show comes up here I will let you know to continue to inspire them their self confidence, teamwork and research skills 😊 With all my very best, Kurt



子供たちのメッセージがうれしくて「プリントアウトして持っています。」という言葉、うれしいですね。いつか本当に学校に来て、英語劇を見てほしいと思います。そういえば、Kurt 先生の人生初めての劇も「不思議の国のアリス」でしたね。